

「親の生き方こそが子育て」

子どもは、親の背中を見て育つと言います。子どもの手本となるために、社会のルールを守ったり、困難に立ち向かったり、みんなと仲よくしたり努力することが大切です。

子どもの様子を見て親として我が身を振り返ることもあります。そんな中で、親も成長していきます。子育ては自己実現のチャンスでもあるのです！！

今回は、天皇陛下が皇太子殿下の時に朗読して話題になった詩を、ご紹介させていただきたいと思えます。

子は親の鏡

けなされて育つと、人をけなすようになる

とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる

不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる

「かわいそうな子だ」と言つて育てると、子どもはみじめな気持ちになる

子どもを馬鹿にすると、引つ込みじあんな子になる

親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる

叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう

励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる

広い心で接すれば、キレる子にはならない

誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ

愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ

認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる

見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる

分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ

親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る

子どもに公平であれば、子どもは正義感のある子に育つ

やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもは、やさしい子に育つ

守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ

和気あいあいとした家庭で育てば、

子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる



『子どもが育つ魔法の言葉』より

ドロシー・ロー・ノルト

上の詩を読んで何を感じますか？

この詩が伝えていることはとてもシンプルなことです。子どもは常に、親から学んでいるということです。子どもは、いつも親の姿を見えています。「ああしなさい」「こうしなさい」という親の躰の言葉よりも、親のありのままの姿のほうを、子どもはよく覚えています。親は、子どもにとって、最も影響力のある『手本』なのです。子どもは、毎日の生活のなかでの親の姿や生き方から、よいことも悪いこともすべて吸収しています。口で何かを教え込もうとしてもダメなのです。親がどんなふうに喜怒哀楽を表すか、どんなふうに人と接しているか。その親の姿が、手本として、子どもに生涯影響力を持ち続けることとなります。